

公民館報

まつもと

発行

2023

3/30



- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社プラルト

昔のあそび

⑩ 学生と住民の交流を促す 奈川えんがわプロジェクト

学生と住民の縁側

松本市が企画した魅力発見ゼミをきっかけに発足した「奈川えんがわプロジェクト」は、奈川地区に学生が入り込み、地域の住民が気楽に笑い合える縁側のような存在となっています。

信州大学の学生が学部を問わず、多い時には20人以上が参加しています。奈川の特産品である保平カブ収穫の手伝いや、閉園中の保育園を清掃し子どもたちと遊ぶ活動など、広く地域に関わっています。「奈川の今をより楽しく元気に」をテーマにして、やって



代表の東大陽さん (信州大学経法学部)

みたいことに積極的に取り組みます。

何度足を運ぶ

プロジェクトによって、学生と地域住民の交流が活発になりました。月に1〜2回の頻度で奈川に通う中で、住民とのコミュニケーションを重視しています。縁のなかつた学生たちを、快く迎え入れてくれる奈川地区住民の方々の懐の広さ、温かい人柄など、通わなければわからない良さを知ることができました。

東さんは「カブの農家さんに電話をもらって一緒にお昼を食べたこと、何回目かの訪問で子どもたちが寄って来てくれたことが思い出深い」と笑顔で話してくれました。

続々交流の輪が広がる

まちづくりはこうであるべき、という学生の思い込みで関わってはいけないという視点が重要だそうです。「地域」は人の営みが脈々と続いてきたもので、人生を生きるヒントが詰まっている」という東

奈川えんがわプロジェクト Instagram



豊かな自然の中で、保平かぶを収穫する様子

さんの言葉には、これまでの活動の密度の濃さが感じられます。

東さんは、活動に関心を持つ後輩たちのために、プロジェクトを継続できる仕組み作りを取り組んでいます。

奈川地区の今を動画に収めました!



梓川の世帯数・人口

世帯数	4,786戸
人口	12,305人
男	6,083人
女	6,222人
(令和5年3.1現在)	

信州梓川賞展

梓川流域の風景や文化、行事を題材とした絵画の公募展「第22回信州梓川賞展」が2月4日(土)から3月5日(日)まで開催されました。

最高賞である梓川賞には、北原啓輔(松本市中央)さんの「古代梓弓の里に流れるつゆ明けの梓川」が選ばれました。

作者の北原さんは、「小学生の時に学校で梓の木で作られた梓弓の話聞き、夏休みに友人と自転車で行った木を探しに梓川へ何度も足を運びました。当時の梓川は今よりも豊かな水が流れており、夏の輝く空の青さが映りこみ、とても青い水を湛えていました。その美しさが頭にずっと残っており、今回絵にすることができました」と作品のテーマを語っていました。

審査員からは、「幼頃の印象的な思い出をさまざまな色や形で描き、川の流れから悠久の歴史を



▲梓川賞の作品と作者の北原さん

読み解くような非常に密度の濃い作品である」と講評がありました。

梓川地域の恵まれた自然が、長く住む人にも、移住された方にも、そして訪れる方にもさまざまなインスピレーションを与え、素晴らしい作品が集う梓川賞展が今後も続いていくことを願っています。

なお、梓川賞展には一般の部に68点、小中学生の部には196点の作品の応募があり、一般の部は梓川賞のほか、金賞が1点、銀賞が2点、銅賞が5点、特別賞3点が選出されました。

梓川小学校開校50周年 & 梓川中学校開校70周年

「大地に立つ教育」

梓川小学校は、昭和48年に旧梓川小学校と倭小学校が統合し、現在地に開校しました。

当初から「大地に立つ教育」を実践し、地域に根差した教育に取り組んでいます。

校歌にも歌われている「くれない」色の校舎が立ち並び、児童は元気にのびのびと学校生活を送っています。

「強く優しく」

思慮深く

梓川中学校は、昭和28年梓村と倭村の中学校を統合し、梓村・倭村学校組合立梓川中学校として開校しました。

学校教育目標に、「強く優しく思慮深く」を掲げ、主体的に学び、自ら考える力を引き出せるよう授業が行われています。

わがまち自慢(芳川地区)

芳川地区の公民館報が全国入賞

「写真で表現、文字は少なく」の紙面作り

令和4年度の第9回全国公民館報コンクールで、芳川地区公民館が奨励賞を受賞しました。

前回令和2年度第8回の鎌田地区公民館に続いての入賞です。

レイアウトは大胆に

紙面レイアウトは委員メンバーが設計します。記事面積の半分が写真のスペースです。はつきりした見出しの字体が目立ちます。編集会議の紙面デザインで芳川地区版の魅力が生まれます。

もう一つ「芳川の今昔物語」は掲載4話となる長寿のコーナーが彩りをそえます。



編集委員は10人「写真で表現、文字は少なく」を実践します

レイアウトは大胆に / 見出しは出立つ



(令和4年9月30日号) 参考

くましい生徒が育っています。



▲開校50周年を迎えた梓川小学校 (改築中)



▲開校70周年を迎えた梓川中学校

梓川小・中学校を卒業して

梓川小学校開校50周年、梓川中学校開校70周年おめでとうございます。私は梓川の地に生まれ育ち、一年先輩が中学校の新校舎を使用した卒業生として、当時の違いに時代の流れを感じている一人です。

小学校のスケート授業は小室のふるさと公園の池のスケートリンクで滑るのが楽しみで、手が凍るような寒さの中で保護者と一緒にリンク整備もしました。その後は、浅間のスケートセンターに変わり、今では岡谷市のリンクとなっていました。

自分の子ども時代と今とは社会環境も大きく変わり、生活スタイルも変わってきました。しかし、学校の横を通ると昔と変わらず子どもたちの元気な声が校内から聞こえてきます。自然に恵まれた梓川に愛着を持ち、これからも「あずさっこ」として、のびのびと育ってほしいと思います。



対談を行う石井山さん(右)と向井さん

東日本大震災被災地復興の... 地域を再生... 災害時には地域社会の... 震災時には地域社会の... 震災時には地域社会の...

全体会

未来につなぐ私たちのまちづくりの集い... 第38回公民館研究集会... 令和4年度地域づくり市民活動研究集会... テーマは「未来を切り拓く学びと自治」...

分科会

午後からは8つの分科会に分かれて... 発表や研究発表が行われました... 第2分科会ではコロナ禍により開催困難となったぼんぼんと青山様を例に...



Table with 2 columns: 分科会 (Subcommittee) and 内容 (Content). Lists 8 subcommittees with their respective topics.

朝の散歩を始めてから8年ほどになる。幼い頃から体力に自信がなかったが、近頃は随分健康になった。自宅は三十余年前に...

おこひる

朝の散歩を始めてから8年ほどになる。幼い頃から体力に自信がなかったが、近頃は随分健康になった。自宅は三十余年前に...



丸太(障害物)を撤去する様子

NICE GUY

消防団員募集... 梓川消防署指導のもと梓川消防団が、協力体制構築と臨

機応変な対応を目的に、火災現場と火災状況を予め通知しないブライント訓練を実施しました。訓練は、想定のみ与える実践的なもので、今回は林野火災現場に駆けつけ、障害物撤去、取水確保などを行うものでした。

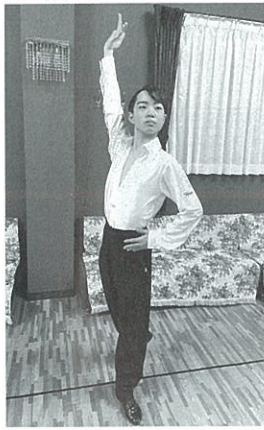
細田副団長は「良い経験ができた。どの現場でも安全確保が大事だ。消火器材の管理を行って、全分団が協力して対処するように」と訓示しました。



取水箇所からホースを繋いで中継放水する様子

その地域の文化だとか難しい話は抜きにして、地元の方を耳にするに落ち着くし、愛着も湧く。恥ずかしがらずに、松本弁を周囲に発していきたくと思う。

社交ダンスジュニア日本一 梓川中学校の南山雄大さん(中学2年生)は、昨年11月に川崎市で開かれたJOCジュニアオリンピックカップ全日本ダンススポーツ選手権ジュニアのラテン種目にペアで出場し初優勝をしました。



日本一に輝いた南山さん

梓川駐在所新庁舎完成 1月31日に梓川警察官駐在所の落成式が行われました。旧梓川警察官駐在所は、昭和56年に梓川村警察官駐在所として建築されましたが、老朽化が進んだことに加え、来訪者用の設備などが古いことから建て替えとなりました。



新しくなった梓川警察官駐在所

雑記帳

先日、友人と地元の方言の話題で盛り上がった。普段気なしに使っている言葉が職場の他県出身の同僚に通じず聞き返されたとのこと。私自身も幼い頃に一緒に住んでいた祖母の影響で方言には自信がある。てきない(疲れた)、まえで(前の方)、やこい(柔らかい)などは日常に使うが、みくさい(汚い、みつともない)や、おぞい(ボロい)、ささらほうさら(散々、滅茶苦茶)などは自分は使わないが、意味は分かるものもある。

歴史探訪

探る松本 33

笹賀地区

地区東側は奈良井川で、かつて一帯は桑畑がありました。第二次世界大戦時に造営された松本飛行場に隣接して、信州まつもと空港が作られました。

概要

松本市の南部に位置する笹賀地区は14町会、人口10、688人、世帯数4、647世帯、高齢化率は26・9%です(2月1日現在)。

歴史

笹賀地区には縄文時代からの古墳があり、古くから開けた土地でした。室町時代の今村観音堂の阿弥陀如来像(市重文)も伝えられています。

1725(享保10)年、水野氏の改易で戸田氏が藩主となり、1743(寛保3)年



ステージ発表をビデオで見ると、また違う印象

以降幕府領とされ、後に松本藩預り領となりました。

地名の由来

1876(明治9)年の「長野県町村誌」に古事、捧の庄に属すと聞くとあり、笹賀地区は当初笹下村と呼ばれていました。

捧の庄はこの辺一帯にあった皇室の荘園のことです。

合併分離を繰り返す

1874(明治7)年二子・神戸・神戸新田・小俣・今村の5ヶ村が合併し、笹下村が誕生しました。しかし水利関係などで合併に無理があり、1879(明治12)年5つの村に戻りました。その後1889(明治22)年全国的な町村合併の流れを受け、5ヶ村が再度合併し、笹下を笹賀に変え笹賀村となりました。

時代は下って1954(昭和29)年8月、前年に施行された町村合併促進法により松

本市と合併し、笹賀地区が誕生しました。



eスポーツって五輪の競技候補なんだって!

公民館活動

コロナ禍でウオーキング大会や町会対抗グラウンドゴルフは中止を余儀なくされましたが、住民の交流を途絶えさせないように、文化祭のステージ発表を、ビデオ撮影したものを放映して、皆さんに見てもらおうなど工夫して活動しています。

コロナ前から15年以上続けている、児童の登下校見守りは56人の会員が「安全サポーター」となり活動しています。今後、eスポーツ(コンピュータを使ったゲームをスポーツと捉えた呼称)やVR(仮想現実)による疑似体験)にも取り組む予定です。また、公民館を不登校の子の居場所として「ほっとスペース笹賀」を開設する予定です。

松本平の野鳥たち

ヤブサメ (2022.4 松本市中山 写真提供:信州野鳥の会)

ウグイスに近い小鳥で、尾がとても短い。全長10.5cm。全身が淡い褐色で眼上部にある眉斑は明瞭(雌雄同色)。広葉樹林で沢沿いの藪のような場所が好みで見かけることは少なく、鳴き声(シィ シィ シィ...と虫のような鳴き声)により気付かされることが多い。しかし、囀りは高音のため、高齢の方には聞き取れないことがあり、松本市の里山では夏鳥として普通だが、気がつく人は少ない。

表紙について

昔の遊び

1月17日(火) 午前9時50分~11時30分
3年ぶりに開催。今井小1年生が、地域の皆さんとけん玉、こま、福笑い、紙飛行機など昔の遊びで交流をしました。楽しそうな声が終始飛び交っており、賑やかな時間となりました。

(撮影 2023.1.17 今井公民館)